

## 決議 普天間基地の移設条件付き返還に反対し、 無条件返還を要求する

アメリカ海兵隊普天間航空基地の返還問題が完全な袋小路に陥っています。これは、鳩山内閣が、基地撤去への沖縄県民の強い願いにもかかわらず、普天間基地の移設条件付き返還にとらわれているからであります。その移設条件付き返還という立場の根本には、米軍が日本を防衛する抑止力となっている、という重大な誤認があります。沖縄の米軍基地は、アメリカの世界軍事戦略の重要な一環であり、とりわけ沖縄の海兵隊は、イラクやアフガニスタンでの戦闘にくりかえし派遣されていることは、広く知られているところであります。一言にしていえば、沖縄の海兵隊は、平和のための「抑止力」ではなく、戦争のための「侵略力」であります。加えて今日、米軍基地における「核密約」の存在が明白となってきましたが、鳩山内閣は、この「核密約」の存在とその破棄をも明確にしないまま、普天間基地の移設先探しに固執し続けています。

私たち「非核の政府を求める京都の会」は、「核兵器のない世界」と「非核三原則を堅持する日本」を希求し、近年は「北東アジアの非核兵器地帯化」の世論を喚起する運動を展開してきました。これは、なによりも軍事力によらない平和と安全の世界を願っていることにほかなりません。

私たちは、以上のような非核平和の見地から、鳩山内閣が普天間基地の移設条件付き返還に固執することを断念し、無条件返還の姿勢をもって対米交渉にあたることを強く要求するものであります。

2010年4月20日

「非核の政府を求める京都の会」第24回定期総会